

# 小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	18	施策名	生涯学習の推進	
小施策コード	18-1	小施策名	社会教育の充実	
小施策 主管課等コード	204000	小施策 主管課等名	生涯学習課	
評価責任者名	川原 善弘		内線番号	7340
評価シート作成者名	山本 尚江		内線番号	7341

## Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの生涯学習をした」と答えた市民の割合	↑	%	40.6	41.7	33.0	43.9	47.2

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

## Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動の継続を図る。</li> <li>学習活動を推進する。</li> </ul>
現状と課題	市民一人ひとりが、生涯にわたり生きがいを持って充実した生活を営み、学んだ成果を社会に還元することができるように、社会的な課題と市民ニーズを把握した学習機会の拡充を図るとともに、生涯学習に関する相談に的確に対応していく必要がある。
取組の方向性	学習情報の提供や学習相談への対応を適切に行うとともに、社会の変化に対応した課題に関する学習機会を提供するほか、地域や家庭における教育力の充実を図るための支援を行う。

### Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
学びの循環推進事業の利用回数	↑	回	148	138	127	155	163

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

### Step 4 市民ニーズの把握

社会教育委員会議，公民館運営審議会，図書館協議会の場において，できるだけ多くの市民が受講できるような講座開催の工夫や，市民主催の学習会へ紹介する講師陣の充実などが求められている。

また，生涯学習課が，補助金を支出している社会教育団体へも，各団体が実施する研修などにおいて，どのようなテーマや講師が求められているか聴取し，ニーズの把握をすると同時に，「学びの循環推進事業」の周知を図る。

### Step 5 役割分担分析

#### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	市民のニーズや社会の要請を踏まえた学習機会を提供するとともに，地域づくりを牽引する人材を育成する。	35
	国・県・ 他自治体	定期的な学習に関する調査を実施し，住民のニーズなどの情報を自治体に提供する。	10
	市民・ NPO	社会教育に関する講座等に参加する。また，そこで学んだ知識を地域や社会に還元する。	40
	企業・ その他	社会貢献の一環として，民間事業者ならではの多様な講座を開催し，新たな学習機会を提供する。	15

## 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

生涯学習の推進の部分では、今後、より市民一人一人の主体的な取組が拡充していくことが望ましいが、小施策の指標の目標達成に向けて、市が事業の周知や生涯学習に取り組むことについて啓発するなど、主導的な役割を維持していく必要がある。

## Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

### 1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

- ・ アンケート調査などを実施し、市民の学習傾向・嗜好などを把握する。
- ・ 把握したニーズに応じて、既存のテーマでも登録講師の見直し、追加登録などを行い、講師陣の充実を図る。（学びの循環推進事業）
- ・ 事業終了後、ある程度の期間を定めて、学校や個人へアンケート等を行い、事業参加での経験がどのように生かされているか把握し、事業内容へフィードバックする。  
（生涯学習課事業）

### 2 1の改革改善案の実施状況

（A：着手済、B：平成29年度に着手（予定含む）、C：未着手または見送り）

改革改善案	具体的な取組（予定）内容	状況
アンケート調査などの実施	小施策18-2「社会教育施設の整備・充実」で実施している。	A
講師登録の推奨	他事業で依頼した社会教育促進事業関係講師へ、登録を依頼する。	B
事業終了後の追跡調査	事業終了直後のアンケートは必ず実施しているが、その後期間を定めた追跡調査は実施していない。	C

### 3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

追跡調査の効果的な時期や手法について、検討中。

## Step 7 成果・問題点の把握

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 市民の学習活動が一定の水準で継続されている。
- ・ 中学生のリーダーが育成されている。
- ・ 新成人のリーダーが育成されている。

## (2) 成果をあげた要因

- ・ 社会ニーズに応じた講座メニューの提供に努めたことによる。
- ・ 中学生の社会参加活動推進事業を継続して実施している。
- ・ 成人のつどいを、新成人による実行委員会で実施している。

## (3) さらなる成果向上に向けた課題（課題がある場合に記載）

日々変化する社会ニーズを的確に把握するための継続的な情報収集機能を強化する必要がある。

## 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

### (1) 小施策における現状の問題点

- ・ 「学びの循環推進事業」において、依頼を受ける講座や講師に偏りがある。また、必要課題に関する講師派遣が減少している。
- ・ 家庭教育支援をさらに推進するうえで、学校現場や福祉施設（保育所等）との連携が必要となるが、その構築ができていない。

### (2) 現状の問題点が生じている原因

- ・ 「学びの循環推進事業」において、市民が受講を希望する講座や講師が登録されていない場合がある。また、必要課題に関する講座の内容に、市民が興味を持ちづらいものがある。
- ・ 具体的な連携の内容が整理できていない。

### (3) 分析した原因の解決に向けた課題

- ・ 積極的に講座や講師を発掘し、登録数を増やす必要がある。また、必要課題に関する講座については、取り上げる事例などを工夫して、市民が興味を持つような内容に見直す必要がある。
- ・ 他自治体へ教育委員会と他部局との連携により成果を上げている事例を照会し、取り入れられるものがないか、検討する。

## Step 8 小施策と構成事業の関係性

### 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

### 2 1で記載した事業についてその理由

### 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

## Step 9 Step 7, 8を踏まえた改革改善案

- ・ 利用者アンケートなどから、ニーズを把握し、講座や講師が登録されていない部門があれば、積極的に発掘し、登録を依頼するよう努める。また、必要課題を取り上げた講座については、受講者等の意見を聞き、講座内容に反映する。
- ・ 他の自治体の事例などを参考に、効果的な連携による事業案を作成する。